

令和6年度第2回淡路島地域公共交通活性化協議会 議事要旨

- 日時：令和7年1月29日（水） 14:00～15:20
- 場所：洲本市経済交流センター（洲本商工会議所）2階多目的ホール
- 出席：別紙名簿のとおり
- 要旨

1. 開会

発言者	内容
事務局 局長	只今より「令和6年度第2回淡路島地域公共交通活性化協議会」を開会する。

●会長挨拶

発言者	内容
会長	昨年3月に淡路島地域公共交通計画を策定した。その計画内容を変更するという ことで今回の協議事項として挙げている。また、今年度関係の皆様のご協力をい ただきながら実施してきた取組みと、次年度に向けた取組みについても協議事 項となっている。ぜひお気づきの点等、ご意見をいただきたいと思います。

●初めて出席する委員紹介

発言者	内容
事務局 局長	株式会社淡路ジェノバライン 安全総括管理者取締役 清水紀晶様 沼島汽船株式会社 代表取締役 松本正也様 国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所洲本維持出張所 所長 江崎裕也様 一般社団法人淡路島観光協会 観光戦略室長 地白雅則様

●会議成立要件確認

発言者	内容
事務局 局長	本日の出席委員は25名で、委員の総数は26名。規約第7条第2項の規定により 過半数を満たしている為、会議が成立している事をご報告申し上げます。

●傍聴者諸注意

発言者	内容
事務局 局長	当協議会は原則公開となっているため、傍聴席を用意しているが、傍聴してい ただく際はお静かにお願いします。

●議事進行について

発言者	内容
事務局 局長	以降、会長に議事進行をお願いする。

2. 議事

●協議 1 について

発言者	内容
会長	次第に従って議事を進める。まず、協議 1 の淡路島地域公共交通計画の変更について事務局から説明をお願いする。
事務局 (代表)	資料(協議 1)により説明。 淡路島地域公共交通計画の中に国の補助路線を明記している。令和 8 年度事業より洲本バスセンターから福良を結んでいる淡路交通株式会社の縦貫線についても国庫補助申請を行うため、この度の協議会で交通計画の変更を提案する。
会長	只今の説明に対して、ご意見、ご質問のある方はいますか。 (意見・質問なし) お諮りする。協議 1 「淡路島地域公共交通計画の変更について」ご異議ないか。 (異議なし) ご異議なしとのことなので、承認とさせていただきます。

●協議 2 について

発言者	内容
会長	それでは、次の議事に移る。事務局より協議 2 の説明をお願いする。
事務局 (代表)	資料(協議 2)により説明。 令和 6 年度実施事業及び令和 7 年度予定事業を実施地域（3 市他）で説明。
会長	資料の中で、検討、協議と記載されているが、それぞれの使い分けを伺いたい。
事務局 (代表)	「検討」と記載しているものは、手法、進め方、施策というものがまだはつきりしておらず、今後検討を重ねていきたいという意味も含めたものとなっている。 「協議」はそこから一段階進み、ある程度共通認識となった方向性を関係者と協議をしながら進めているものに記載している。
片岸 委員	施策の評価の「2-1-2 高速バスの地域内乗降の拡大」において、一点追記していただきたい。福良から出ている三ノ宮福良線において、神姫バス担当分が令和 6 年 10 月 1 日より淡路市内の津名一宮 IC、北淡 IC、淡路 IC 全て乗降可能という

	ことでオープン化している。そのため、現在「協議中」となっている部分に追記していただきたい。
瀬川 委員	島内における高速バスの移動において、島内降車ができないものと理解している。淡路市の住民の方から乗車専用停留所により利便性が損なわれているという声もある。
片岸 委員	高速乗合バスのうち、都市間輸送をしている三宮、新神戸、神戸空港まで行くバスは島内と島外の区分が明確にされており、オープン化していない。福良-舞子の起終点と先ほど申し上げた神姫バス運行分の準急行便については島内乗降可能な路線となっている。現在、高速バスの運行において4社共同運行を行っており、島内のオープン化についても前向きな協議を行っている。本四海峡バス運行の温泉号等、全体の中に島内乗降可能な便もいくつかあるという状態である。
谷池 委員	淡路島に来られる方の多くはマイカー利用の方だと思うが、バスを利用される方やインバウンドの受け入れ態勢は整えていかなければならない。アクセスの問題やネット検索における利便性についてどこまで整備されているのかお伺いしたい。
事務局 (代表)	現在、ウェブ上で閲覧、検索できるWEBアプリ「buSmo」をリリースしており、高速バス、路線バス、コミュニティバス、船等淡路島内の乗換検索を行うことができる。インバウンドへの対応ということで、今年度は英語版、来年度は韓国語、中国語を導入する。島外からの旅行者については、GTFS-JPの整備を行い、グーグルマップの他様々な乗換アプリで検索を行うことができる。
事務局 (淡路市)	淡路市ではバス停での多言語表記や路線のナンバリングを進めている。バスでいうと、乗り場が分かりにくいところもあるので、改善できるよう検討している。あわ神・あわ姫バスにおいては、バス停の標柱にバスロケーションシステムや「buSmo」の案内を行っている。
谷池 委員	以前洲本 IC でスマホ片手に迷っている外国人の方がいた。ぜひとも充実を図っていただきたい。
吉本 委員代理	万博に来てもらった人が兵庫県も訪れてもらえるようにひょうごフィールドパビリオンが認定されている。その中でもプレミア・プログラムとして、「沼島おのころクルーズ」が選定されている。バス協会としても「バス旅ひょうご」を使ってフィールドパビリオンやプレミア・プログラムに人を運びたいが、現状バスでこれらに人を運ぶというのはハードルが高い。交通手段だけというのではなく、観光地もセットになったモデルコースを示すことで行動を起こす方もいると思

	う。是非とも検討していただきたい。
会長	観光協会の取組みとも繋がる場所があるのではないかなと思う。地白委員によ しければ説明をお願いしたい。
地白 委員	観光協会では、淡路島の新たな魅力発信として、淡路島の食を支えてもらって いる事業者とともに、生産現場等の体験ができるプログラム「本物体験」を進めて いる。この取組もモデルコースに組み込めないか検討したい。 淡路島に来られる方は京阪神の方が多くそのほとんどがマイカーでの来島となっ ている。遠方の方になればなるほど車での移動が難しくなるため、公共交通を利用 して来島してもらいたい。インバウンドが集中している京都、大阪方面から乗 継を少なくし、淡路島に来られる方法を考えている。バスを降りた後「どうしよ う」とならないために、旅前に様々な情報を知らせておくのが重要だと思う。 「buSmo」の中でカーシェアやレンタカー予約等についても連携できるようにし ていこうとしている。 別件になるが、南あわじ市の黒岩水仙郷の開園時期には、多くの観光客が訪れて いる。その影響で洲本市のモンキーセンターにおいて、洲本バスセンター方面に 運行していた洲本市のコミュニティバスに中国人観光客が乗り切れないというこ とがあったと聞いている。現在 8 人乗りのバスで運行してもらっているが、観光 シーズンだけでも多くの方が乗れるような形になれば利用拡大に繋がるのではな いかなと思うので検討をお願いしたい。
大塚 オブザーバー	本日オブザーバーとして参加させていただいているが、1 点質問と 2 点お願いを させていただきたい。 1 点目は、目標値 6 の収支率のところ为目标値より下回っている理由について伺 いたい。 2 点目は、会議の中で利用者へのケアの話もあった中で、運転手不足についても 目を向けていただき、こちらの問題も重要なものとして引き続き認識しておいて もらいたい。 3 点目は、検討、協議という話の中で様々な施策について考えていただいている。 国としてのサポートができる場所があればしていきたい。ご相談いただければ 対応させていただきたいのでよろしくお願いします。
事務局 (代表)	目標値 6 のご質問に対してお答えする。 ・収支率は運行収入を運行経費で割ることで算出している。基準年の時と今回を 比較すると、運賃収入は 911,000 円ほど下がっているのに対し、運行経費は

	19,128,000 円ほど上がっているため、収支率が目標値を下回るものになっている。 その他の目標値についても言及する。 ・利用者数は、基準値に 635,458 人から人口減少も鑑みて最終的な目標値を 532,000 人としている。 ・公的資金投入額は、計画策定時が 470.9 円となっており、令和 6 年度時点の数値が 663.3 円となっている。特殊要因として挙げているバス購入費が大きな原因であり、バス購入費を抜きにすると 488.2 円ということで計画策定時より若干増額している。この理由として昨今の人件費の高騰や物価高の影響で公的資金の投入額もあがっていると認識している。
宮奥委員	公共交通空白地の対策として、国の方ではライドシェアに取り組んでいる。淡路島内 3 市におけるライドシェアの取組みについて伺いたい。
事務局 (洲本市)	洲本市内の話に限定すると、すぐにライドシェアを導入していくのは難しい。千草地域にてデマンド交通の実証運行を約一年半行ったが、結果的に一部のヘビーユーザーのみの利用にとどまった。デマンド交通を進めていくのか、ライドシェアを進めていくのかは今まさにタクシー事業者と検討を行っている状態。地方部においてライドシェアの制度をそのまま運用するのは難しいと考えている。
事務局 (南あわじ市)	灘地域において NPO による自家用有償運送を令和元年度より実施している。しかしながら、NPO による運行でも運転手の高齢化が問題になっている。今後関係者との協議を含めバス、タクシー、ライドシェアといった交通手法のバランスを取りつつ、どのように地域の交通を成り立たせていくのか、住みやすい街にしていくのかといったところを検討していく。
事務局 (淡路市)	淡路市内での交通空白地の対策は、デマンド運行を基本に検討している。ライドシェアの取組みに関しては現状検討していない。
片岸委員	先ほどライドシェアの話があった。現状、ライドシェアはタクシー事業者のものであり、バス事業者は手出しできないが、非常に興味を持っている。
会長	他にご意見はないか。 他に意見もないようなので、協議事項を終了し事務局に進行を返す。

3.閉会

●連絡事項

発言者	内容
事務局 局長	事務局より一点ご連絡がある。現在、本協議会における事務局を島内3市で2年ごとに交代しつつ運営を行っている。昨年度、今年度は洲本市が担当していたが、来年度より南あわじ市が担当することになる。今年度、今回のような会の開催はこれで終了になるかと思うが、令和7年度については先ほど申し上げた形で対応していくことになるので引き続きご協力をお願いしたい。 閉会にあたり、福島会長よりご挨拶をお願いする。

●会長挨拶

発言者	内容
会長	本日はお忙しいところ参加していただき感謝する。今後さらに淡路島の公共交通が便利なものとなるように施策を進めていきたいと思うので引き続きご協力をお願いする。
事務局 局長	それでは以上をもって本日の協議会を終了する。 長時間ありがとうございました。

以上